

○公立高校の在り方の方向性について

【観点 1】各地域の生徒数が減少する中、現在の高校の配置を維持することは難しい。普通科高校の適正配置や再編統合など公立高校の在り方についての方針を示すべき。

＜委員のこれまでの意見＞

- 今後、生徒数がさらに減少する中、現在の高校の配置のままでは持たない。県教委がリーダーシップを発揮し、統廃合するなり何なりの手を打つ必要がある。
- 子どもの数が減る中で、高校の今まで通りの存続はかなり難しくなり、統廃合も必要になってくるだろう。
- （県中学校長会において）通学区域の議論だけでなく、今後の徳島県の公立高校の在り方についてのビジョンを示してほしいとの声を数多くいただいた。
- 現在の学校の配置を前提に議論するのかなどなのか、高等学校の在り方についての大きな方向性だけでも県教委から示していただければ、議論も進むだろう。
- 徳島市でいえば、生徒数が今後の 10 年間で普通科約 1 校分減るようになる。学区制を撤廃するにあたり、高校（再編）の在り方について並行して議論していかなければならない。
- （校長アンケート結果より）学区制が廃止となるまでに、
 - ・ 普通科の在り方について県教委の方針を明確にしてもらいたい
 - ・ 普通科の在り方や統廃合についての議論をする必要があるとの意見があった。
- 撤廃する前に短い期間をかけて、あらゆる問題に対応できるような形に持っていき、それから特色ある学校づくりや学校の統合なども並行して考えながら撤廃すれば、全ての人にとって良いのではないか。
- 城西高校神山校における地域を巻き込んだ大きなプロジェクトの発端は、定員割れによる高校存続の危機感である。守られている中では、そういうアクションは始まらないのではないか。

【観点2】通学区域制の撤廃を見据え、県西部・県南部において拠点校を定め、新校舎を整備するなど教育環境の公平性を担保することが必要。

＜委員のこれまでの意見＞

- 学区制を撤廃すると、10年後には、徳島市内の高校に進学しなければ難関大学に進学できない状況になるのではないかと。撤廃の方向で進めるのであれば、徳島市以外にも拠点校となる新校舎を整備するなど、地域ごとの教育環境を平等にしてもらいたい。
- （校長アンケート結果より）学区制が廃止となるまでに、
 - ・県南県西に拠点校を指定してほしい
 - ・第2学区のうち1校新築化してもらいたい
 - ・通学バスの運行や寮の増設などが必要になってくるのではないかととの意見があった。
- 県南、県西部の校舎の整備など、必要と思われるような施策が講じられることなく、学区制が撤廃された場合、徳島市内への一極集中が加速化して、地域の衰退や地域にある学校の存続が危惧される。
- 第3学区とその他の学区では、普通科設置校の校舎築年数に大きな差がある。学区制を撤廃するのであれば、徳島市以外の高校の校舎整備にも力を入れていただきたい。
- 特色化・魅力化については、各高校でも随分尽力している。教員のさらなる努力を強いるのではなく、校舎の建て替えなどハード面での魅力化も検討していただきたい。

【観点3】地域とともに各高校のさらなる特色化・魅力化を進めるべき。そのためには、県と併せ市町からの支援が必要。

＜委員のこれまでの意見＞

- 各高校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーに沿って関係者が協働する必要がある。高校の特色化・魅力化については、学校運営協議会を活用し、地域の方たちを巻き込んで今すぐにでも始めていただきたい。
- 徳島市以外の高校が、子どもたちが希望してくれるような高校になってほしいというのが一番の願い。普通科高校の定員が減ってきているのを危惧している。
- 学区制撤廃に向けた移行期に、流入率の引き上げと同時に、入試制度の改革、高校の特色化・魅力化を推進するべきである。

- このまま自然淘汰に任せると、徳島市内の高校に人気が集中し、存続が危ぶまれる高校も出てくると思われる。是非、他県の事例も参考にしつつ、行きたいと思える特色ある学校をつくっていただきたい。
- 人気がある学校とそうでない学校、そこには理由がある。それぞれの学校で特色ある学びを展開し、その特色を全面的に打ち出してPRをして、子どもたちに興味を持ってきてもらえるような状況をつくるべき。
- 公務員のなり手が減ってきており、公務員試験に対応できる学科をつくるのもいい。また、現在の育成型選抜はスポーツの強化とのイメージがあり、それだけで高校として生き残っていくのは難しい。それ以外の本来の目的に立ち返って高校の特色をもっとアピールできるような内容を考える時期が来ているのではないか。
- しっかりとした特色を作り出すには、かなりの時間と労力がかかり、特効薬がなく大変難しい。特色化・魅力化については、思い切った策を講じる必要があるのではないかな。
- 遠隔授業によって、徳島市内の大規模校の授業を周辺の小規模校で受けることが可能になると中学生や保護者の不安や困りごとを減らせるのではないかな。
- 学校としての役割を果たしながら高校の魅力化を図り、地域間格差が生じないように地域や行政も支援することが必要。中学生の進学先選択のため、進学実績の他、卒業生が社会や地域でどのような役割を担い、活躍しているか発信してほしい。
- 学区制の見直しと同時に、各学校の特色化を進めない限りは、子どもたちが主体的に学校を選択するということにならない。県と併せ市町も真剣に取り組み、ヒト・モノ・カネを提供するぐらい地元高校を育成するという立場で踏み込んでいただきたい
- 県内普通科高校の在り方、学校再編や遠距離通学となる生徒への支援策、それから各高校のさらなる特色化・魅力化への対応は必須であり、ヒト・モノ・カネが必要。制度だけを変更すれば全てうまくいくものではない。
- 志願者数が増加している他県の事例は、自治体からの大きな支援があった上での取組。予算がない中では、総合的な探究の時間において、地域との協働により特色を出したり、部活動で生徒を集めたりするなど、限られたことしかできないのが現状。
- お金をかけてやることだけが特色の生み出し方ではない。在校生を巻き込んで自分たちの学校の現状について、どんなところがいい、どうすべき、どう発信しようと考えて取り組み、それを行政がサポートしていく形もひとつの方法である。
- 特色化・魅力化などの問題は、教育関係者の方々の従前からの課題である。民間でも行政でもヒト・モノ・カネが足りていない中で知恵を出し合い、新たな課題に取り組んでいる。